

風早北部  
防犯情報

## しょうなん

SHOW "No Action No result"

お子さん・お孫さんに「自分を  
守る力」を身に付けてもらいましょう

これから冬場にかけて、学校帰りに暗くなる時間が徐々に早くなってきます。下校後の習い事などに通うお子さんやお孫さん（以下「お子さんら」と称します）もいることでは、下校時に子どもだけで行動することが多くなります。そのため、犯罪からなお子さんらを守ることは、子どもに「自分を守る力」を身に付けさせることが肝要になります。

## 防犯教育は年齢に合わせて行うのがよいと思います

まず、低学年の子どもが一人で外出する際、「気を付けてね」と声をかける保護者が多いですが、小学生くらいの幼い子どもだと、具体的に何に気を付けたらいいかわからないことが多いです。子どもの年齢に合わせて適切な防犯教育を行うことが、事件や事故、犯罪被害のリスク回避につながります。

6～8歳の小学校入学前から低学年の頃は、具体的な防犯対策について伝えることが大切です。「何が」「なぜ」「どのように」危ないのかを話し、「危険を察知する力」を身に付けさせましょう。

行動範囲が広がる高学年の9～13歳は、危ないと思った時にその場を離れたり、人が大勢いる場所へ移動したりする「危機対応力」が身に付くような練習が必要です。防犯ブザーの使い方なども、定期的を確認しましょう。

具体的に小学校低学年の1～3年生にどんな防犯教育をしたらいいか考えてみましょう。



入学前後は、「先生の言うことをよく聞いて、学校や登下校であったことを親に教えること」「寄り道せず学校からまっすぐ家に帰ること」「嫌なことは嫌だとはっきり言うこと」「家の人以外の車に乗らない、一緒に行かないこと」を子どもと約束します。

犯罪者に遭遇した時にしっかり声が出せるように、危険な場所や人から一刻も早く逃げ去ることができるように、子どもと一緒に鬼ごっこやリレーなどで「走る」「叫ぶ」体験をしてみましょう。防犯ブザーの活用も効果的なので、犯罪者から見える位置に取り付けることが大切です。電池が切れていないか、定期的にチェックしてください。

みんなで守ろう！  
みんなのいのち！



また、ルールを無視したり違反したりすることは、犯罪などの危険に巻き込まれるきっかけになる可能性があります。なぜルールがあるのか、守らないとどうなるのかを親子で話し合い、ルールに従う意味を考えてみましょう。

行動範囲が広がり、一人で出歩くことも多くなる小学校高学年の子どもには、どんな防犯教育をするべきでしょうか。

まずは家庭で「安全マップ」を作成し、日が暮れると暗くなる場所や事件・事故があった場所などを話し合います。さらに、危険な目に遭った場面を想像して、どのような危機回避方法があるか考えてみましょう。例えば不審者に手を掴まれたら体や手を大きく振り回して逃げる、防犯ブザーを鳴らし大声で叫びながら逃げるといった具体的な逃げ方について練習しておくことも大切です。



「気を付けてね」という声掛けだけでは、十分な防犯教育とは言えません。まずは子ども本人に危機感を持たせるため、どのような場面で危険に遭いやすいか、どんな被害が想定されるか親子で話し合ってみましょう。そして、子どもが保護者の言ったことをしっかり理解していることを確認しておきましょう。

仮にお子さんが理解できないようなら、再度ゆっくりと分かり易い言葉で説明をし、家族が皆納得をして日々の生活を送れるようにしましょう。